



堀口大學全

8



堀口大學全集

堀口大學全集 8

昭和六十一年三月十五日印刷
昭和六十一年三月二十日發行

著者 堀口大學

發行者 長谷川郁夫

發行所 小澤書店

東京都千代田區富士見二丁目五十二
電話(東京)二六三一九二二八(代)

印刷 精興社

製本 大口製本

製函 日東工業

定價八五〇〇圓

凡例

一、本全集は、堀口大學の全業績を、詩、短歌、譯詩、評論・研究、隨想、翻譯作品（小説・戯曲・評論・隨想）等の各分野に互って、原則として既刊の單行本を中心に編纂したものである。

*

一、本卷（第8卷）は未刊作品Ⅱとし、著者の單行本未收録作品の中から、現在（昭和六十一年一月末日）までの調査によって蒐集されたすべての散文作品（第7卷收録作品以外のもの）を採録した。

一、本卷本文の内容に關しては、創作・翻案、評論、隨想補遺、雜纂とし、その他に講演・談話及び翻譯補遺を設けて、著者生前の散文作品を網羅し、最終的な編輯を完了した。

一、これらの作品は、原則として發表年代順に排列した。但し、隨想補遺に收めた隨想作品だけは第7卷の主題別な編輯方針をそのまま踏襲してある。

一、隨想補遺の中には、新聞發表等で「談話」と明記されているものも採録した。

一、雜纂の書評の中には底本が部分的に破損しているものがあるが、赤字の部分に明記した上で敢えて採録した。また選者の言葉は底本が全て完備しなかったが、不詳のものは「未確認」と明記して該當箇所に入した。

一、同じく雜纂の宣傳詩文中の「時世粧」に關しては、編者（堀口大學）の手になると推測されるコピーも多々見受けられるが、「堀口大學」と明記されているものだけを採録した。

一、翻譯補遺には、補卷三卷で補いきれなかった特に重要な二作品を採録し、翻譯作品についても最終的な編輯を完了した。

一、これらの作品は、著者の近代詩史に於ける役割を明確にする方針に則り、すべて初出發表誌紙（一部は單行本初版）を底本として使用した。また雜誌等に未發表の作品（「いすばにや春愁譜」等）は、殘存する生原稿を底本にしてある。

一、底本に明らかに著者の筆蹟と認められる改稿がある場合はすべて生かす方針をとり、その異同は校異・校註

に摘記した。

一、本巻本文の漢字假名遣等は、原則として底本通りとしたが、昭和二十年前半から三十年代全體に及ぶ混用期の用法については假名遣を基準にして漢字の使用を決定した。つまり底本が新字舊假名遣のものは正字舊假名遣に、正字新假名遣のものは新字新假名遣に改めてある。拗・促音もこれに順ずる。

一、正字舊假名遣使用の本文は、次のような場合に限って訂正した。

1 誤字・誤植と判断されたもの。

〔例〕 西班牙↓西班牙、莊麗↓壯麗、憬憬↓憧憬、氣概↓氣概、全々↓全然、等。

2 假名遣の誤り（但し、用ひる、及び音便に關する表記）は底本通りとした。

〔例〕 とうとう↓たうとう、ように↓やうに、あやうく↓あやふく、てうど↓ちやうど、等。

3 脱字、及び送り假名不足で不自然なもの。（「」内は本巻で補ったもの）。

〔例〕 動〔か〕さう、横つて↓横〔は〕つて、横つて↓横〔ぎ〕つて、等。

4 著者の訛用と判断されたもの。

〔例〕 従ひて↓従へて、飽えて↓飽いて、おむかひ↓おむかへ、エマアジュ↓イマアジュ、等。

5 前後が轉倒したもの。（但し、發表當時の慣用と判断されたものは底本通りとした）。

イ 訂正したもの。

〔例〕 遊晦↓晦遊、使驅↓驅使、唆示↓示唆、開展↓展開、等。

ロ 訂正せず底本通りとしたもの。

〔例〕 譚所、徵象、等。

6 俗字（但し、同字と見做される場合は雙方を並用した）。

イ 正字に改めたもの。

〔例〕耻↓恥、鼓↓鼓、潤↓潤、闊↓闊、戲↓戲、涼↓涼、熱↓熱、纏↓纏、等。
□ 雙方を並用したもの。

〔例〕唇↓唇、竝↓並、鋪↓鋪、回↓回、廻↓廻、蟲↓虫、等。

一、次のような場合は底本通りとした。

1 底本發表當時の一般的慣用と見做されるもので、誤字・誤植とは判断できない用法。

〔例〕紀念、謂所の、重な、業蹟、等。

2 著者独自の用法。

〔例〕一圖、由因、立ちとまる、ありともしない、等。

3 同語の異書體。

〔例〕其所⇨其處、欲⇨慾、翻譯⇨翻譯、ぢつと⇨じつと、等。

4 踊り字。

一、新聞等で第三者の手によって開かれた熟語は、正しく訂正した。

〔例〕分せき⇨分析、清てう⇨清澄、山てん⇨山巔、かん天⇨旱天、等。

一、當時の一般的慣用と見做されるものの中でも、普遍性を缺くと判断されたものは訂正した。

〔例〕不拘⇨拘らず、一寸と⇨一寸、お可笑く⇨可笑しく、等。

一、新字新假名遣の本文に於いて、人名等の固有名詞は一部の例外を除き原則として新字新假名遣に訂正した。

〔例外〕大學、九萬一、萬造寺齊、等。

一、ルビに關しては各底本が不統一であるため、判讀困難な特殊なもの、及び引用詩篇に附されたもの等を除き、すべて割愛した。

一、外來語や外國の地名人名の片假名表記は、拗・促音を含め原則として底本通りとしたが、とりわけ同一文中

に異表記の頻度の多いものに関しては、より普遍的な表記に統一した。

〔例〕アラビア→アラビヤ、デンマルク→デンマーク、センポリスト→サンポリスト、等。

一、外国語の原綴は、明らかな誤植と思われるものを正すにとどめた。校異・校註に記載のない箇所は、すべて底本通りである。

一、疑問符・感嘆符の後は一字アキに統一した。

一、本文中の詩の引用箇所は各底本が極めて不統一のため、左右一行アキに統一した。

一、本文中の「」、『』に関しては、書名のみ『』を使用し、他はすべて「」に統一した。またそれらが缺けている場合は補った。

一、底本に伏字（×××）が用いられている箇所は、それを埋めるための資料がなく伏字のままとした。

一、底本を訂正出来ない箇所、及び諸々の問題点は、本文の行の右側に〔註〕の記號を附し、校註に記した。

一、談話、講演及び生原稿を底本とした場合に關しては、校註に明記した上で異同は省略した。

一、以上の處置により、本文と底本との間に異同を生じた場合は、ルビ・括弧・引用形式の異同以外はすべて校異に摘記した。

一、卷末の解題には、資料として堀口大學編輯の三雜誌の總目次を掲げた。

目次

未刊作品II

創作・翻案

5

評論

83

隨想補遺

243

文人交遊

245

文藝雜考

263

海外見聞

281

西歐文人錄

295

映畫・演藝

324

身邊雜錄

327

雜纂

347

序跋文

349

書評

413

編輯後記

425

推薦文

434

自著廣告

448

宣傳詩文

455

短文集

463

* 選者の言葉

480

講演・談話

537

翻譯補遺

575

作品細目	629
校異・校註	643
解題	667

堀口大學全集
8

未刊作品Ⅱ

創作・翻案